箱根観光情報新聞のホームページを開設しました。箱根観光情報新聞で検索できます。

タクシーのご用命は0120-148-512登山ハイヤーへ

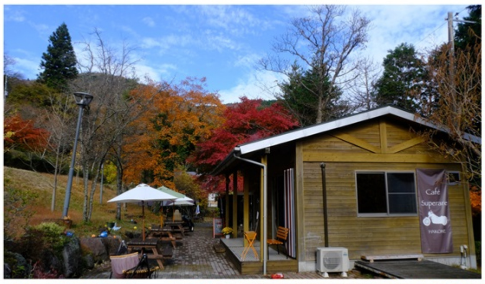
無料
ご自由にお持ちください

研究会
光情報
箱根観

箱根観光情報新聞

箱根観光情報新聞
2024秋号第二版
令和6年11月1日発行
企画制作
箱根観光情報研究会
協力
箱根モビリティサービス㈱
制作責任者：美馬　哲
発行部数：700部

珈琲をいただきながら紅葉を愛でる



毎年、秋になると日本各地で紅葉が色づき始め、人々の目を楽しませてくれる。

日本ならではの光景だろう。箱根でも各エリアで赤やオレンジ色に染まった紅葉を楽しめる。昨年お乗せしたオーストラリアからお越しになったお客様も「ビューティフル」を連発していた。オーストラリアではあまり紅葉する樹木がないらしい。

さて、箱根の場合、標高差があるため、エリア毎に見頃の時期が異なっていて比較的長い間楽しめるのが特徴だ。一一月初旬に仙石原や強羅周辺、一一月下旬に小涌谷、宮ノ下周辺が色づき、一二月初旬に塔ノ沢が見頃を迎える。

本紙では以前から珈琲をいただきながら気軽に紅葉を楽しめるスポットを探していたが、昨年一一月、偶然見つけることができたので、紹介しよう。

昨年一一月本紙編集長が行きつけのカフェスペラーレでランチをいただいていると、カウンター横の大きな窓、コンロのケトルの向こう側にオレンジ色の葉が見えるのに気が付いたのだ。オーナーに尋ねると「今年開店したばかりなので、確認はできていないが、紅葉しそうな木はある。」とのこと。確かに同店は昨年五月に開店したばかりなので、四季の移り変わりは未確認のことが多いはず。そこで、毎週、休みの日に珈琲をいただきながら紅葉パトロールをするために同店を訪問することになった。

すると、二週間ほどした一一月二三日朝、山小屋風の店舗横、駐車場周辺の紅葉をカメラに収めることに成功。京都のような真っ赤な紅葉ではないが、オーナーの奥様が淹れてくださるこだわりの珈琲をいただきながら、赤やオレンジに染まる紅葉を楽しむことができた。

同店では店内でもお食事や珈琲をいただくことができるが、敷地内にベンチやキャビンも用意されている。天気が良ければ是非、ベンチで箱根の自然を感じながら紅葉を愛でて欲しい。

また、カフェスペラーレでは今年五月から平日のみ一日五食限定で日替わりランチの提供を始めた。

美味しい上に一食一、一〇〇円と大変リーズナブルな価格設定、早い者勝ち。

なお、一二月になると箱根では紅葉が楽しめるエリアは標高が低い塔ノ沢周辺に移る。環翠楼周辺や函嶺洞門周辺の紅葉がお薦めだ。

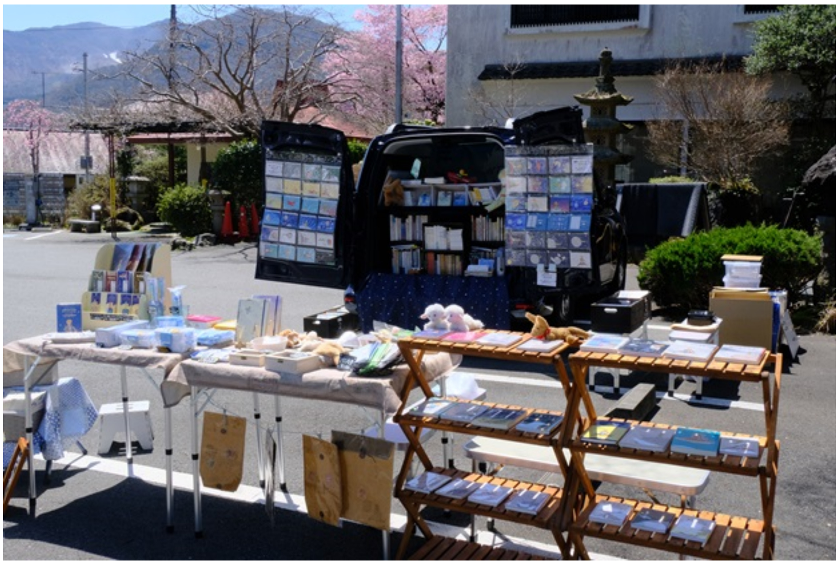
星の王子さまと移動書店

仙石原には昨年三月末まで「星の王子さまミュージアム」と言う施設があった。

一九九九年に星の王子さまの作者サン＝テグジュペリの生誕一〇〇周年を祝した記念事業の一環として仙石原にオープンした施設で、特に女性に人気があったが、コロナで入場者が減少したようで、残念ながら昨年三月末日で約二十四年間の歴史に幕を閉じた。

閉園の際には本紙でも記事を掲載し、読者の皆様からも大きな反響があった。

その「星の王子さまミュージアム」の元スタッフの方が箱根を中心としたエリアで移動書店をオープンしたと言う知らせが本紙にあったのは今年の三月。早速編集長が訪問したのは、今号の二面「名店訪問」のコーナーで紹介しているラーメン蔵一の駐車場。蔵一や近所のカフェ　ポコアポコの店休日に駐車場を借りて営

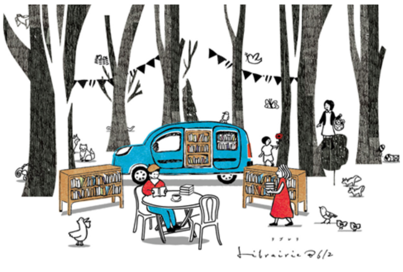


業。星の王子さまの作者サン＝テグジュペリが搭乗していた愛機にちなんでルノー製のカングー（搭乗していた愛機にルノー製のエンジンが搭載されていた）が店舗。ボディーは濃紺に黄色のラインと星のマーク、ボンネットとドア下にはサン＝テグジュペリの名言が書かれている。星の王子さまのファンの方は一目見たらすぐにわかるデザインだ。

カングーの周りには星の王子さま関連の書籍や星の王子さまが描かれたバッグやステーショナリー、食器などが展示販売されている。

イベントにも出店しており、営業日程はホームページで紹介しているので、スマホやタブレットでチェックしてからお出かけになることをお薦めする。

ホームページはGOOGLE、YAHOOで「星の王子さま　リブレリ　B612」で検索できる。オンライン販売もしているので、是非、覗いて欲しい。



On ne voit bien qu'avec le cœur.
L'essentiel est invisible pour les yeux.

名店訪問

茶のちもと

箱根湯本の温泉場入口横に古い洋館風の建物が立っている。この建物で七〇年前から和菓子を提供しているお店が、箱根を代表する和菓子店「ちもと」だ。

昭和二五年に当時は銀座に本店があった「ちもと」から暖簾分けして開店した。

その和菓子店の横にカフェ「茶のちもと」がある。開店は二〇一〇年五月。

白を基調にした店内に席数は一二席、利用は四〇分までと言う小さなお店だ。

カフェだが珈琲はメニューにはなく、日本茶と「ちもと」の和菓子が楽しめる。

メニューを見ると最初に目にするのは「湯もち」。

ちもと駅前通り店の看板商品で、箱根界隈の有名旅館のお着き菓子にも使われている。湯上りの肌をイメージした柔らかいお餅で、早川の岩石をイメージした羊羹を包み、柚子の香りを付けた銘菓だ。

また、一〇月一日に秋限定のスイーツの取り扱いを始めるらしい。「和菓子屋さんの栗モンブラン」。濃厚な栗のクリームの中に香りの良い和の素材を閉じ込めた逸品だ。

提供されるのは一一月末日までの予定。秋の紅葉を楽しんだ後に是非立寄ってその味を堪能して欲しい。

ラーメン蔵一

福島県の喜多方ラーメンの味を堪能できるお店が仙石原にある。本紙編集長もよく立ち寄る「蔵一」。「なぜ箱根で喜多方ラーメンの味？」が謎だったが、今回、その謎を解き明かすべく取材させていただいた。応じてくださったのは二代目店主　勝俣仁絵氏。

HAKONE・SENGOKUHARA
RAMEN KURAICHI

創業者の奥様のご姉妹が「まこと食堂」、「あべ食堂」に嫁ぎ、その関係で創業者ご夫婦も喜多方から麺などを仕入れ、一九六一年、箱根で店を始めた。喜多方ラーメンを代表する「まこと食堂」と「あべ食堂」とは文字通り姉妹店だったのだ。にぼし、鶏ガラ、豚ガラ、背油を使った醤油スープに仙石原の水を合わせた独自の味を確立。ランチセットのソースかつ丼も喜多方で人気のメニュー。建物外観は喜多方の蔵をイメージしたもので、内装の石張りは石工だった創業者が丹念に石板を切り抜き組み合わせたものらしい。残念ながら「あべ食堂」、「まこと食堂」はこの数年で相次いで閉店したため、姉妹店では最後のお店となった。これからもラーメン好きのために頑張って欲しいお店だ。

本紙ホームページ公開

本紙は今年一二月一日に創刊五周年を迎えます。

創刊当時より、ホームページで情報発信をするようご要望をいただいておりましたが、今年七月二〇日にようやく準備が整い、ホームページを公開しました。

左記ＱＲコードでアクセスできますので、是非ご覧ください。なお、箱根で出会ったお客様との楽しい会話や箱根移住関係の話題も提供してまいりますので、どうか宜しくお願いします。

箱根観光情報新聞QRコード

お願い

本紙ではお客様にできる限り正確に情報をお伝えするよう努力しておりますが、紙面の都合上、お店の場所や営業日、営業時間などの詳細をお伝え出来ない場合がございます。お手数をおかけしますが、訪問される前にお店や施設のホームページなどで営業日、営業時間などをご確認くださいますようお願いいたします。

TAXI
HAKONE MOBILITY SERVICE
TAXI
箱根に観光に来たけれど
「どこを見たらいいかわからない。」
「効率的に観光したいけれど・・・。」
とお悩みのあなた
箱根観光は登山ハイヤーがお薦めです。
今すぐ
0120-148-512(携帯OK)へ
TAXI
HAKONE MOBILITY SERVICE
TAXI